令和5・6年度 第5回高崎市公民館運営審議会 会議録

開催日時 令和6年7月18日(木) 午後1時30分から2時40分

開催場所 高崎市中央公民館 集会ホール

議題 提言に関わるこれまでの経緯
提言の柱(案)について

公開・非公開区分 公開

出席委員 (16人)

佐藤芳正委員 ・ 原徳応委員 ・ 串田昭光委員 ・ 三澤憲一委員
小高広大委員 ・ 内田祥子委員 ・ 櫻井登委員 ・ 植原孝行委員
原田和之委員 ・ 山口堅二委員 ・ 秋山美和子委員 ・ 丸茂ひろみ委員
上條ちづ子委員 ・ 品田佳江委員 ・ 井澤千代美委員 ・ 岡部敬子委員

欠席委員 (4人)

星野雅代委員 ・ 小屋美香委員 ・ 大河原吉明委員 ・ 小見勝栄委員

成立 高崎市公民館運営審議会規則 第4条第2項による

事務局出席者

山口順子中央公民館長・川嶋昭人公民館担当部長 齋藤崇夫教育担当係長
錦部光樹次長・江積利雄次長・千保木優次長・大村政彦次長・塚越康弘次長・
平石貴文次長・伊藤俊一次長・武政文隆次長・貫井賀津夫次長・岡田清香主任
主事・古川和江行政囑託

傍聴定員 5人

傍聴者数 0人

所管部課名 教育部高崎市中央公民館

令和5・6年度 第5回高崎市公民館運営審議会 議事録

議事

1 提言に関わるこれまでの経緯

会長： 議事に入らせていただきます。まず初めに（1）提言に関わるこれまでの経緯について、今年度初めての審議会ですので、新しい委員さんもおります。その関係もあり、昨年度から進めている提言の作成に関わるこれまでの経緯について確認したいと思います。事務局より説明をお願いします。

事務局： 改めて昨年度からの経緯についてご説明させていただきます。資料3ページ「令和5・6年度高崎市公民館運営審議会提言に関わる経緯について」をご覧ください。

まず初めに、提言についての始まりが、昨年度、令和5年11月29日の第2回公民館運営審議会です。委員の皆様にご協議をいただきまして、連絡協議会からの諮問に対する答申という形ではなく、審議会からご提案いただくということ、また、コロナ禍における各公民館の状況を調査し記録として残すとともに、「持続可能な地域づくりの拠点としての新しい公民館の在り方 ～コロナ禍を超えて～」というテーマで公民館連絡協議会へ提言することに取り組むこととなりました。

第2回公民館運営審議会での決定を受けまして、12月6日に行われました12月の定例公民館長会議、市内の45公民館の館長が集まる毎月1度行っている会議ですが、に串田会長にご出席いただき、取り組み内容について公民館長の皆様にご提案をしていただきました。取り組むテーマ、またその背景、合わせて取り組むために、コロナ禍における公民館の状況についてアンケート調査を行いたいということについてご提案いただきまして、館長会議で了承を得ました。

その後、こちらには記載がありませんが、12月にかけて、委員の皆様からいただいた意見と、実際に記入する側として地区公民館の次長からも意見を徴取しまして、そういったご意見、また、館長会議での質疑の内容を参考にしながら、実際のアンケートの調査票を作成いたしました。

調査票が完成しまして、1月の館長会議、また、公民館主事が集まる主事連絡会議で、調査について依頼を行いました。そして、1月から2月にかけて調査票の回収を行いまして、その調査結果をまとめたものを、3月6日の第4回、昨年

度の最後の公民館運営審議会で、委員の皆様にお配りさせていただきました。また、3月の審議会では、7名の委員に専門委員となっていただきまして、専門委員で具体的な提言作成に向けて取り組むということでご了承をいただきました。

ここまでが、令和5年度の経緯となります。

令和6年度に入りまして、まず、6月20日に第1回の専門委員会を開催しております。こちらでは、調査結果を基とした提言の柱となる項目について協議を行いまして、提言の柱の案を作成いたしました。

そして、本日7月18日が、令和5・6年度でいうと5回目、今年度においては、はじめての公民館運営審議会という形となります。

簡単ではございますが、昨年度からの提言に関わる経緯についての説明は以上となります。

会長： ありがとうございます。ただ今、事務局から説明がありましたが、この件について質問等ありましたらお願いします。

【意見等なし】

会長： ないようですので、これまでの経緯については以上となります。ご承知おきいただければと思います。

2 提言の柱（案）について

会長： 続きまして、提言の柱の案についてです。提言の作成にあたって、提言の柱となる項目を決め、そして、その項目ごとに内容を整理し、提言を作成したいと考えております。経緯にもございましたが、そのため、先月、専門委員会で、副会長を中心に協議し、調査結果を基に提言の柱となる項目の案を作成しました。本日はこの柱の案について委員の皆様からご意見をいただければと存じます。初めに、副会長より、提言の柱の案について、説明をお願いいたします。

副会長： ご指名ですので、提言の柱の案につきましてご説明をさせていただきたいと思っております。

先ほど、事務局の方から細かく今までの経緯の説明がございました。昨年実施いたしました調査を基に、7名の専門委員がそれぞれ提言の柱を3項目ずつ持ち寄りまして、第1回専門委員会で協議をいたしました。

その際、調査の自由記述の内容ですが、本日、新たに委員になられた方は、アンケート調査の結果が配られたかと思いますが、その中に公民館の方で自由記述

をした部分があります。その記述の内容を、例えば1の公民館事業につきまして「つながりづくり」「地域づくり」ですとか、「デジタル化への対応」というような形で分類をいたしまして、その内容を検討いたしました。

今期の公民館運営審議会といたしましては、コロナ禍を経験したことによって公民館の現場でどのような変化が生じたのかということを検証して、新たな公民館の役割を模索していくための提言としていきたいと考えまして、次のような提言の柱を提案させていただきます。資料といたしましては、4ページをご覧くださいながら聞いていただければと思います。

まず、1といたしまして、「再認識した「居場所」としての公民館」と掲げました。高崎市では、コロナ禍においても極力公民館を閉めないという方針で運営してまいりました。社会が分断されている中で、公民館に集って活動できるありがたさについて語る利用者がいたということもありまして、「再認識した「居場所」としての公民館」というものを取り上げました。

2の「リアルでもネットでも「つながる」公民館」という部分につきまして、コロナ禍で公民館事業が縮小したり、定期利用団体の活動が休止したりいたしました。公民館では、学びを止めないということで、Zoomなどを活用してネット上でつながる工夫をした、という取り組みもございました。今後につきましては、ますますICTの活用が必要になってくると思われれます。そうしたことに対する対応も必要になってくると考えられます。それと同時に、コロナ後に公民館に集うことができるようになったときに、リアルな場で人と触れ合い、交流することの大切さを改めて認識した、という意見もございました。そうしたことから、「リアルでもネットでも「つながる」公民館」を柱といたしました。

3の「困難な時にも「新しい学び」を創出する公民館」につきましては、コロナ禍でもそうでしたが、公民館の利用者の高齢化や、利用者の減少ということも、困難な状況として挙げられると考えられます。しかし、こうした状況下にあっても、新しい良い変化が生まれているということが、調査結果からもわかってきました。そうした変化も事例として共有をいたしまして、高崎市の公民館全体の取組の参考としていただくことができるのではないかと考えまして、この柱を提案いたしました。

4の「地域の人たちの「活躍の場」がある公民館」につきましては、3の良い変化の中には、新たな地域人材の発掘に関わる事例の記載がされておりました。地域の中には様々な知識、技術、経験をお持ちの方々がいらっしゃいます。そうした方々の活躍の場として、公民館が位置づけられるためにはどうしたらよいか、ということ提言していくための柱として、こういったものを考えました。

5の「多様な人が交流し「地域をつくる」公民館」につきましては、公民館利用者が高齢化をして若い世代の利用が少ないという課題が、様々な公民館の方か

らも挙げられています。一方、若い世代の居場所がないということも社会的な問題として考えられます。公民館事業ではなくても、これは私の地元の事例になってしまいますが、地域づくり活動協議会の活動で、地域のお祭りの時に、中学生のボランティアを募り、その中学生のボランティアを大学生のボランティアがお世話をするという多世代の交流が行われています。その活動の拠点を地域の公民館で行っているという事例もございますので、こうして多世代が交流しながら地域をつくる、その拠点として公民館を位置づけられるのではないかとということで、この柱を提案いたしました。

以上で、5つの柱につきまして、専門委員会の中で協議をしてまいりました内容を、こちらの方でご紹介させていただきました。委員の皆様におかれましては、ご検討の上、ぜひご承認賜りますようお願い申し上げます。私からの説明は以上です。

会長： ありがとうございます。今、副委員長のご説明にもありましたように、柱に至りましたアンケートの状況等を踏まえたお話であったかと思えます。それでは、この件について、ご意見やご質問等ございましたらお願いいたします。少し時間を取りたいと思えますのでよろしくお願いいたします。

社会教育関係者 A： ご説明ありがとうございます。自分も専門委員なのでこの打ち合わせには参加させていただいていたのですが、この文言を見ていて、2の「リアルでもネットでも「つながる」公民館」という形で書いてあると思えますが、「リアルでもネットでも」というのは、対比が取れていないという気がしました。例えば「リアルでも、オンラインでもつながる公民館」という方が、リアルとオンラインというのが、完全なる対比ではないのですけれども、少し対比に近いと思えましたので、そのように修正させていただくのはどうかと思い、発言させていただきました。

会長： ご意見をいただきました。

副委員長： ありがとうございます。私もこの部分、非常に悩んだところです。この辺りを最終的にまとめる段階でどのようにするか考えておりました。今、ご意見頂戴いたしましたので、この「ネット」の部分は、「オンライン」と修正することによろしいかと私の段階では思われます。他の方も何か特にございましたら、この件についても、ご意見いただければと思います。

会長： 修正していければという、柱をまとめられた副委員長からのお話です。よろし

いですか。

【意見無し】

会長： よろしいでしょうか。表情を見ますと、良いですねという、そんな感じですので、そこを尊重していきたいと思います。

それでは今ありましたように「リアルでも、ネットでも」、その「ネット」のところを「オンライン」ということで、文言を整理していきたいと思います。よろしく願いいたします。ありがとうございました。

学識経験者 B： 私も今日、読ませていただいて、なかなか現代の公民館の課題をついたテーマだと思いました。今、2番のところ、実は私も同じようなことを考えていました。先程のご意見とはちょっと違って、「リアルでもネットでも」というところを、オンラインになったので、リアルが生きてくるかなと思います。私は、リアルのところを違う言葉にした方が良いかなと思っていました。しかし、趣旨は同じですので、先ほどの提案の内容で良いと思います。

他の項目のところなのですが、感想というか、こうしてくださいということではありませんが、例えば4の「地域の人たちの「活躍の場」がある公民館」。なかなか良い現代的な文言だと思いますが、少しひねって考えると、地域の人たちが活躍するところが元々公民館なので、「活躍の場がある公民館」というとどうということなのかなと思いました。これはこれで良いのですが、元々、地域の人たちが活躍する場が公民館なので、新たな違った活躍ということを考えるのだとすれば、少し文言を入れた方が良いのではないかなと思いました。具体的な案はありません。

5の「多様な人が交流し「地域をつくる」公民館」ですが、こちらもなかなか現代の公民館の課題をついていて良いテーマだと思います。ただ、少し細かくて恐縮なのですが、「多様な人々」という複数形にした方が良いのかなと思いました。そういう意味では、4番のところは、もう少しひねれる、もう少し考えても良いのかなと思いました。特にこうした方が良いという案はありません、投げかけです。以上です。

会長： ありがとうございました。4、5について、4については投げかけ、5については、少し文言を付け加えたらいかかということかと思いますが。それについて作者の方はどう思いますか。

副委員長： まとめた立場としてご意見をしっかりと受け止めていきたいです。

4の「活躍の場」のところもそうなのですが、居場所も、つながりも、新しい学びも、考えてみると、全てが公民館に元からある役割です。それなので、例えば1については、改めて「再認識した」という言葉を加えるというような形になっております。「活躍の場」にしても、今までどのくらい公民館の中で活躍をしていただけていたのかなという、そういう意味の反省も込めまして、改めて「活躍の場」という言葉をこちらに持ってきたということがございます。

この後、また事務局なりからご説明あるかと思いますが、とりあえず、柱をこちらの場で決定していただいた後に、具体的なものについては、委員の皆様からご意見を頂戴しながら、この下に落とし込んでいくような形になりますので、その時にまた、色々ご意見をいただければと思います。どうぞ、よろしく願いいたします。

会長： ということで、柱の、例えば4の「地域の人たちの「活躍の場」がある公民館」、それはやはり公民館の役割でありますけれども、ただ、改めてアンケートをとった結果、どうしてもこれはという、そういうところもあるということですよ。

副会長： はい。そうですね。

会長： このところに、公民館の役割に違いないですけれども、「活躍の場」と入れたのは、そういう経緯があるということです。

もう一つ、5の「多様な人々が」の「人々」、これについてはいかがでしょうか。

社会教育関係者 A： 先程の委員からの話も含めて、自分なりに思ったのですけれども、4の「地域の人たちの「活躍の場」」の「場」にフォーカスするならば、この「場」は生かしても良いかなと思うのですが、そうじゃないのだとすれば、「地域の人達の活躍できる公民館」などというふうにすると、少し色々な意味を含められるかと思えます。場を作ることが使命だ、というのだったらこちらでいいと思いますが、そうではなく、広く活躍できるところにする、それが公民館だよ、というふうにすれば、新たな、という要素も勿論入れつつ、今までの、従来の、というの生かせるのかなと少し思いました。

5の「多様な人」の複数形なども、個人的に、上が「人たち」なので、下も「人たち」が良いかなと思います。地域の人たちが交流し、4が「人たち」と言っているんで、その辺り「人々」でも良いと思うのですけれども、そのように思ったので、発言させていただきました。

会長： 4のところについては、「場」を、「活躍のできる」というご意見、更には、5

の「人」については、4に文言を揃え「人たち」としていくという、2つのご意見がありました。

観光ガイドの会選出委員： 4番のところですけども、言わんとすることはほとんど同じような感じがあるので、私は、このままでも意味は通るのではないかなと思います。変えてもきりがいいような気がするので、4は、このままでも意味は通ると思います。

また、先程の「人びと」と「人たち」は、統一した方が良いでしょう。

会長： 文言を少し整理していこうというテーマかなと思います。いかがしたらよろしいでしょうか。

観光ガイドの会選出委員： 会長に一任します。

会長： そうしましたら、文言整理ということで、「人たち」に統一したいと思います。

吉井地区選出委員： 皆さんすごいな、深く考えるのだなと思っていました。私はこの説明を受けている時に、1から5までを見た時に、最後に全て「公民館」と付いていて、その前に「」が付いていて、「」のところをつないでみて「公民館は居場所になってつながって、新しいことを学んで活躍ができる。そして地域づくり」をする、と捉えました。一続きになるよう、意図して作ったのでしょうか。

副会長： ずっと、公民館はこういうところだよね、と言われてるのが、居場所であるしつながるし、新しい学びを創るし、活躍もできて、そして地域をつくっていく、と、本当にひとつつながりで、それらはどうしても外せないのだけれども、現状の公民館を見たときに、なかなかうまくいっていないところや、ダメかなと思うところもありましたが、こういう新しい動きが出てきたらしいということが、この調査をしたことで明らかになってきました。なので、一つ一つの柱を立てた中に、実はこういう事も起こっているということや、ここはまだ課題があるようなので、今後このようにしていったらどうかということを、今後提言にして纏めていけるかなと感じました。また、良い事例がたくさんあっても、共有する場がなかなか無いので、できれば、そうした事例を今後、審議会の中でも、委員の皆様を知っていただいたり、提言の中で事例集のように、事例の紹介ができたりすれば、すごく良い提言書になると考えています。ただ、ひとつつながりの文章だと、なかなかどこに落とし込むか難しいので、とりあえず今日、提案させていただいた提言の柱をご承認いただきまして、そちらに今後、具体的に皆様の意見を落と

し込んでいただければと考えています。どうもありがとうございました。

吉井地区選出委員： 良いなと思いました。

会長： 柱について、至った経緯も含めて、ご理解していただいたのかなと思います。ありがとうございました。

今まで、協議の中で明らかになったことの確認をさせていただきます。2のところ「リアルでも、ネットでも」の、「ネット」のところを「オンライン」とするので良いでしょうか。

4の「地域の人たちの活動の場」の部分は、意見が分かれております。この原案ということで、「活躍の場」で行きたいのですが、よろしいでしょうか。

【賛成の声】

会長： よろしいでしょうか。「活躍の場」でいきます。

5のところの、「人」ですね。かなり深い背景がありましたが、「人」なのか「人びと」なのか「人たち」なのか、という意見が出ています。

副委員長： 「人たち」が良いのではないのでしょうか。

【他の委員からも賛同の声】

会長： これは、「人たち」で統一していきます。ということで、今出てきたご意見については、まとまりました。

別件でご意見ございましたらお願いします。

社会教育関係者 A： 細かいことなので流していただいて良いのですが、「多様な人たちが交流し」ということと、「地域をつくる」と書いてあるのですが、「交流し」というのをあえて入れているのか、ここだけ「〇〇して交流する」という感じの文章になっている気がします。地域を作る上では交流が大事だという、あえての強調なのでしょう。多様な人たちが「地域をつくる」公民館でも良いわけですね。でも、この交流ということを入れておきたいのか、どうなのかなと思ったという事と、もう一つ、3番の「困難な時にも「新しい学び」を創出する公民館」という、「困難な時にも」ということが、コロナ禍を経ているから入れているのか、どうなのかなというところを、教えていただければと思います。

副会長： 先ほどの、柱を作った時の説明の中でも述べたのですが、「困難な時にも」

というのは、困難にはいろいろな状況があります。まずはコロナ禍があったかと思いますが、利用者の高齢化、利用者が減少しているとか、今後についても困難な状況は様々に出てくると考えられます。なので、あえてここは「困難な時にも」と入れています。「新しい学びを創出する公民館」であれば、今までの提言と殆ど同じ考え方となるかと思うのですが、コロナ禍を経験し、その中で様々な定期利用団体さんの困難な状況等も出てきました。今後も、何かしらそういったものが起こるかもしれない。そうした時でも、公民館は新しい学びというものを作っていくんだ、という意味で入れてあります。

「多様な人が交流し」のところも、あえて入れています。多様な人が地域を作るという事もあるかもしれませんが、公民館は何をするところかという、皆で話し合ったり、地域のことを皆で考えてやっていったりという交流をする。それを交流という言葉で表すのが良いかということはあるかもしれませんが、そういうことを通じて地域づくりをする、という考え方で、あえて「交流し」と入れてあります。先程の老若男女、様々な立場の人や、様々な年齢の人、そういった人たちが公民館の中で交流することがまずできて、そのことが地域づくりにつながっていくという、この流れを大切にしたいということで、このように書いてあります。

会長： という意図があったのですけれども、よろしいでしょうか。他にご意見ございましたら、お願いします。

もしよろしければ、提言の柱について、委員の皆様から、ご承認いただければありがたいと思います。

【提言の柱について承認】

会長： ありがとうございます。

それでは、提言の柱、5つの柱で行きたいと思います。柱につきましては、これで進めさせていただきます。

学識経験者 B： 今日の議題とは別なのですが、先日、都内に住んでいる知り合いから連絡があり、高崎市の公民館運営審議会についてよく知っていました。私たちの発言というのは、事務局が記録して、ネットにアップされています。我々の議論は、ここだけではなく色々な方が見ているということをお伝えしたいということです。

会長： 情報提供ありがとうございます。内容について色々なところで見られていま

すよ、という情報でした。

提言作成に向けて今後の作業です。委員の皆様から、柱の各項目の内容について、改めて提言をいただきたいと考えています。近日中にご案内いたしますので、ご意見をお寄せいただきますようお願いいたします。その後、皆様のご意見を基に専門委員会で協議し、提言の案を作成していきたいと考えておりますので、専門委員の皆様には、重ねてご協力のほど、よろしくようお願いいたします。

それでは、議事はこれまでといたします。進行を事務局へお渡ししたいと思います。

報告・連絡事項

- 事務局： （１）令和６年度高崎市公民館運営審議会日程について
（２）前回審議会の会議録及び議事録について

閉会

事務局： 以上で、第５回 高崎市公民館運営審議会を終了させていただきます。皆様、お疲れさまでした。ありがとうございました。